



# 加古川はぐるま福祉会後援会 前会長 大庫俊介さんを偲んで

加古川はぐるま福祉会

理事長 高井 敏子

大庫会長が亡くなられて早10カ月が経過しました。

一昨年10月加古川はぐるま福祉会の礎である「加古川はぐるまの家」の地鎮祭に、そして昨年4月には新築された「加古川はぐるまの家」にお祝いに駆けつけて下さり、働く機能が充実した施設を見学してとても喜んでいただいた笑顔が忘れられません。

会長にご就任頂き8年。役員会や打ち合わせ等でお目にかかるたびに経営者としての主眼と人材育成の大切さを力説され多くを学ばせていただきました。また、大庫会長の口癖は私にとつて「福祉は門外漢」ですが、共生社会を構築するためには『まず知ること』と掲げられ、会長自らが障害のある方に職場実習の場を提供して下さいました。また後援会の2つの目的である「法人への財政的応援」と「共に生きる社

会構築の啓発」を広く地域で実践して頂き心より感謝しております。これからもっとご指導いただきたいと念じておりましたが、突然の訃報に接し、言葉もありませんでした。これまで学ばせていただいた数々のことを大切に、新生「加古川はぐるま福祉会」は着実に前進して参りますので、どうか見守ってください。本当にありがとうございました。

加古川はぐるま福祉会後援会

元会長 三宅 洋一

平成26年度後援会役員会の席上で私は次期会長として大庫俊介氏を推薦、満場一致で承認されました。私が先輩から受け継いだバトンをしっかりと繋ぐことが出来てほっとしたことを今も鮮明に覚えています。あれから4期7年8カ月、加古川はぐるま福祉会後援会を牽引して頂き心より感謝申し上げます。

大庫氏は経営者として、またロータリアンとして多くの人脈を大切に新しい時代に即応するバイタリティー溢れる活動を積極的にされてきました。一方、ライフワークとして地域の青少年育成に尽力。とりわけボーイスカ

ウトの活動に長年関わり次世代の人材育成に奔走され熱く語られていた姿を思い出しています。ここ数年体調不良の時期もあつたようですが、お元気になられたとお聞きしていたので安心しておりましたが、去る令和3年10月15日突然の訃報に接し唯々残念でなりません。突然大庫会長を失い、後援会役員各位の要請もあり大庫会長の残任期間を再度私が会長を務めさせていただくことになりました。そして令和4年度からは加古川中央ロータリークラブの前川忠範氏に会長のバトンを無事引継いだことをご報告し、謹んでご冥福をお祈りします。

加古川はぐるま福祉会後援会

会長 前川 忠範

この度、大庫会長の後を受け、加古川はぐるま福祉会後援会長を仰せつかった加古川中央ロータリークラブの前川忠範です。

私は造園土木業を営んでいて、大庫さんとは以前から仕事の関係で交流がありました。2008年に加古川中央ロータリークラブに入会させていた

大庫さんも私も、共にゴルフ・旅行・お酒・車も好きだったため、ロータリーに入会してから共通の趣味を通じてプライベートでも共に過ごす時間が増えていきました。

いつもニコニコ微笑ながら、ロータリークラブは仕事を通じて、職業奉仕をしていくのだと教えて下さったのも、大庫会長でした。

大庫さんが加古川はぐるま福祉会の後援会長になられてから、加古川はぐるま福祉会が、加古川中央ロータリーの親クラブである加古川ロータリークラブ創立25周年記念事業で設立され、財政面を支援するため後援会を発足し、初代会長に当時、元加古川中央ロータリークラブの会員であった、稲岡元市長が就任され以後、加古川中央RCの会員が後援会長を仰せつかったのだと教えて頂きました。

加古川はぐるま福祉会の目的である「障害のある方もそうでない方も、共に生きる地域社会」の実現に向け、常に前向きな志を持たれた大庫会長。生前、「人のために奉仕をするんですよ、しいては、自分のためになるのですから」とご享受も受けました。

大庫さんの足元にも及びませんが、後援会会長の銘を受け精一杯志を繋いでいく所存です。どうか、私たちの事を天国から見守ってください。ご冥福をお祈り申し上げます。

# 共に生きる

澤井 はる子



今年41歳になる康隆は、地域の小学校の障害児学級を卒業後からはぐるまの家に通所して早25年経ちました。

とてもおとなしく呼んでも知らん顔で言葉が出なく、反応が乏しい子で2歳頃に自閉傾向、知的障害があると診断された後は言葉の教室、感覚統合訓練、抱っ子法のセラピーなど良いと思えることはやろう、親が何とかしなくてはと必死でした。

小学校の夏休みに5泊6日の動作法の療育キャンプに家族の協力を得て母子で4回参加しました。言葉で会話は出来なくても気持ちを通じるようになり、月1回の動作法、認知学習の訓練会に参加して20数年、た

ていただき、本人の課題や生活の工夫などを親子で学びました。動作法はキャンプで出会った先生と再会し、仲間たちと今も続けています。大きな節目の中学卒業後の進路は、小5の夏から決めていました。当時の担任の先生が、はぐるまの家の見学に連れて行ってくださり、はぐるまの家で働くかっこいいお兄さんになるうーと合言葉が出来ました。自力通所が出来るか不安でしたが、明確な目標が出来ました。

中3の修学旅行前日の荷物検査の後に、本人はこれから出発すると勘違いして、帰宅せずに加古川駅まで4km程歩いて行き、お金も持っていないのに電車でなんと西明石まで行ってしまったのでした。駅員さんが見かけたとの情報でピンときた父親が西明石を探してみようと、中学校の先生がすぐに向かってくれました。同級生や地域の方々も探して下さり、夜になってやっと新幹線改札口の脇で飲まず食わずで、ぐったり座り込んでいたのを発見できたのです。お陰様で翌日からの修学旅行には参加出来ました。

学校以外への一人歩きはさせてなかったのに、何回か家族と新幹線に乗った記憶を頼りに新幹線で九州へ行こうとしていたのです。この件がきっかけで何も出来ないのではなく、親が考えている以上の力があり、教えたなら出来るようになるのではと希望が持てました。



20年余りの自力通所では行先の違うバスに乗ってしまったり、自転車やパンクや鍵の紛失等のハプニングもありましたがGPSを持たせ、その都度修正・練習をしました。同じバスに乗っていた利用者さん達からの情報にも随分助けられました。

作業では紙器加工班の箱折りを長く続け、分解班では給湯器の室外機を小さな部品一つになるまで根気良く分解と分別に取り組んでいました。

親バカな息子の自慢ですが、紙の厚みや形の複雑な箱でも折り方の見本を示されるとすぐに見て覚え、正確で絶妙な折り目を付けることが出来るそうです。箱を組み立てる時、これは澤井君の折り目付けた！とすぐ分かる位に成形しやすく明らかに違いが分かったそうです。しかし、作業に向かえずに大声を出しながら退室してしまうことも多く、担当の指導員さんに工夫して対処してもらい根気強く支援していただきました。

3年程前からは、心身面の状態などを考慮し生活介護事業に移行する事になりました。現在は送迎バスを利用して通所し、ゆるやかなペースで仕事を頑張っています。仕事をし

て貰った給料で好きなおやつや本を買い、電車でヘルパーさんとお出かけ、外食に行く事が楽しみです。また、好きな和太鼓とことばの教室の先生からのお誘いで、バスケットボールにチーム発足時から参加し、どちらも25〜26年間続けている楽しみです。因みに今年のふれあいスポーツ大会では、チーム結成以来の大量得点で歓喜の初勝利を挙げました。始めた頃はボールが怖く逃げていてコート外に出てしまったのに、試合で数回シュートを決め得点出来るまでになりました。まさにいつも励まされてきた言葉の通り、継続は力なりです。